



WASEDA University

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 先進理工学専攻

Department of Advanced Science and Engineering,
Graduate School of Advanced Science and Engineering

Access Map

- 地下鉄東京メトロ副都心線 — 西早稲田駅 出口3(早大理工方面口)直結
- JR山手線 — 新大久保駅 徒歩12分
- JR山手線
- 地下鉄東京メトロ東西線
- 西武新宿線
- 地下鉄大江戸線 — 東新宿駅 徒歩15分



<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

E-mail info@sci.waseda.jp

TEL 03-5286-8263

早稲田大学大学院 先進理工学研究科／先進理工学専攻 連絡事務局

世界が抱える問題に、 科学の力で挑戦してみないか



新しい大学院

社会の直面する課題がますます複雑化・高度化しつつある現在、専門分野を深める大学院課程の充実に加えて、豊かな教養と専門性を併せ持ち国際的視野からのリーダーシップを発揮できる人材を養成することが、大学の新たな責務となっております。

早稲田大学では、この要請に応えるべく、従来の学術考究型の大学院教育とも、高度専門人材育成のための専門職大学院教育とも異なる、第三の大学院教育のモデルとして、大学院先進理工学研究科に先進理工学専攻を新設いたしました。

先進理工学専攻では、5年一貫制のカリキュラムにより、高度な専門能力に加えて、俯瞰的な視野と進取の行動力を兼ね備えた博士人材を養成していきます。早稲田大学がこれまで進めてきた国内外の教育研究機関および産業界との対話をさらに深め、時代を先導する新たな大学院教育を展開いたします。

“グローバルリーダーを育てる5年一貫制博士課程教育”

早稲田大学大学院 先進理工学研究科に2014年4月に開設した5年一貫制博士課程の先進理工学専攻では、物理、化学、電気・電子、生命科学など、複数分野の課題が複雑に絡むグローバルイシューの解決に資する力を身につけ、国際的な舞台でリーダーとして活躍できる理工系博士人材を育成します。

修士課程と博士課程に区分しない一貫制だからこそ、欲張りな履修・研究計画を立てることが可能です。インターンシップや対話型演習科目、文理融合科目、AI・IOT系科目なども組み込んだ体系的なカリキュラムのもと、学生各々の専門を基盤に世界で競いワクワクする研究を通して専門性を高めながら、さらに課題解決のカギとなる広い視野とグローバルコミュニケーション力を身に付けることができます。

履修科目一覧

【専門科目(30単位修得)】

- エネルギー・ネクスト課題設定・解決演習(2単位)
- ラボローテーション演習A(1単位)
- ラボローテーション演習B(1単位)
- ミシガン実践的英語演習(4単位)
- 上級物理学A:ソフトマター物理(2単位)
- 上級物理学B:固体物理学(2単位)
- 上級化学A:機能有機材料化学(2単位)
- 上級化学B:資源エネルギー化学(2単位)
- 上級電気電子A:有機エレクトロニクス(2単位)
- 上級電気電子B:電気エネルギー(2単位)
- 上級生命科学:生物物性(2単位)
- エネルギー・ネクストシステム・デバイス特論(2単位)
- Material for Energy Applications(2単位)
- マテリアルズインフォマティクスα(1単位)
- マテリアルズインフォマティクスβ(1単位)
- リーダーシップ開発プログラム(1単位)
- 理工学術院内の設置科目
- 他箇所設置科目(合計8単位まで算入可)

【俯瞰科目(10単位修得)】

- エネルギー・ネクスト概論(1単位)
- 政治学研究科 ジャーナリズムコース設置科目(科目例)
 - ・報道現場論
 - ・メディア産業論
 - ・科学技術とメディア
 - ・環境とメディア
 - ・科学広報・コミュニケーション論
 - ・地球環境問題と持続可能な社会
 - ・ソーシャル・メディア論
 - ・ニューズライティング入門
- 創造理工学研究科 経営デザイン専攻設置科目(科目例)
 - ・技術系経営幹部講話
 - ・イノベーションマネジメント
 - ・技術者のための国際企業経営リーダー論
 - ・科学技術・知財の商業化プロセス
 - ・技術アセスメント

- ・知財マネジメントの基礎
- ・製品開発マネジメント概論
- ・マーケティングエンジニアリング
- ・会計・経済性工学
- ・経営情報分析技法
- グローバルエデュケーションセンター設置「イノベーター／アントレプレナー養成科目」(科目例)
 - ・起業特論A:トッリーダーマネジメント
 - ・起業特論B:スタートアップエッセンシャル
 - ・データビジネスクリエーション
 - ・AIビジネスクリエーション
 - ・博士実践特論S:ロジカルコミュニケーション
 - ・博士実践特論A:イノベーションリーダーシップ
 - ・博士実践特論B:産業イノベーションとキャリアデザイン
 - ・イノベーション概論
 - ・イノベーションとテクノロジー基礎・実践
- 博士後期課程大学院共通科目の研究倫理系科目

【進取科目(6単位修得)】

- 研究機関・企業実習A(3単位)
- 研究機関・企業実習B(3単位)

【英語科目(4単位修得)】

- Discussion Tutorial English in Science and Engineering(1単位)
- 英語教育センターが修士課程に設置する大学院共通科目(科目例)
 - ・Professional Communication
 - ・Advanced Technical Reading and Writing
 - ・Workplace English
 - ・Advanced Technical Presentation

- =必修科目
- =選択必修科目
- =選択科目

取得学位

博士(理学)または博士(工学)

コース認定

所定の単位を修得すれば、政治学研究科ジャーナリズムコースに既設の「ジャーナリズム大学院副専攻プログラム(Jコース)」「(12単位)や創造理工学研究科経営デザイン専攻に既設の「技術経営リーダー専修コース」(10単位)の資格認定を受けることができます。技術経営リーダー専修コースの認定後、同専攻の「スーパーテクノロジーオフィサー 資格認定コース(STOコース)」所定の単位(6単位)をさらに修得し、審査会に合格すればSTOの資格認定も受けられます。

カリキュラム

本専攻は、物理、化学、電気・電子、生命科学など複数分野の課題が複雑に絡む社会問題に対し、自らの出身学科の専門を軸として科学技術の視点から解決に挑戦する人材を育成する5年一貫制博士課程です。従って、本専攻は幅広い学科から学生が集います。

課程前半で専門力を高めるための専門科目、大局的な視点で将来や社会的課題を見渡せる「俯瞰力」を、後半ではリーダーシップを発揮して新しい研究領域の開拓に挑戦できる「進取力」を身に付けるための科目を置いています。2年次の終わりに能力試験Qualifying Examination(QE)を実施、課程の最後には、欧米副査を交えた学位審査を行い、国際水準の質を保証して社会に送り出します。

QE前
36単位

QE:Qualifying Examination。2年次の終わりに実施します。単位修得状況および学術論文(投稿中を含む)を受験資格とし、専門分野における知識レベルを口頭試験および博士論文計画書(研究プロポーザル)の内容により評価します。本試験による修士号の認定・授与はありません。

問題を作り出した時と同じ思考では、その問題を解決することはできない。

(Albert Einstein)

専門上級科目
物理、化学、電気・電子、生命科学の各分野の上級科目を用意。講義やディスカッションを通じ、複合的な専門知識を身に付けます。

LD1



▶エネルギー・ネクスト課題設定・解決演習

物質・材料からデバイス、システムまで様々な視点からの対話型講義を受け、次々世代の技術・社会インフラについて議論します。



◀ミシガン実践的英語演習
ミシガン大学テクニカルコミュニケーション教育の専門家から学術論文誌へ研究成果を投稿するための論理構成力やライティング技術、また国際会議でのプレゼンテーションを学びます。



◀ラボローテーション演習A・B
他分野・他研究室でラボワーク(共同研究、ゼミ参加、装置利用、他)、視野を広げ、新しい研究スキルを学びます。



◀研究機関・企業実習(3ヶ月×2回)
国内外の企業・大学・研究機関など、世界トップレベルの環境で研鑽し、研究力の向上を目指します。

実績:(企業)米ブリヂストンアメリカス、米P&G、独BASF、独シーメンスなど、(国際機関)仏OECD、独IAEAなど、(大学)米スタンフォード大学、英インペリアルカレッジ、独ボン大学、蒙モナシュ大学など



▶学位審査

学位審査は博士論文審査、英語での口頭試問、複数報の学術論文、QE時の博士論文計画書(研究プロポーザル)に基づく成果物等により総合的に実施されます。審査分科会において特に優秀であると認められた場合、早期修了も認められます。



コースワークと並行してラボワーク(研究活動)を進めます。QE以降は企業からのアドバイザー(コンサルティング教員)を含む複数教員によって多面的な指導を受けられるようになります。

ラボワーク

カリキュラムを受講している学生の声



岡 弘樹

先進理工学専攻 2年

この専攻では多くのチャンスが与えられます。私は飛び級制度でQEを早期通過し、2年次にウプサラ大学に3ヵ月間留学しました。決められた時間内での効率的な実験、週に1度の英語での成果報告、数時間に及ぶディスカッションなど大いに刺激を受けました。上級科目の履修では、異分野の知識を深く広く学ぶことができました。今後も多くのチャンスをつかみ、経験を自らの力に変え、エネルギー問題の解決に貢献する革新的な高分子機能材料・デバイスを構築できる研究者を目指します。

■ 多くのチャンスを力に変えて

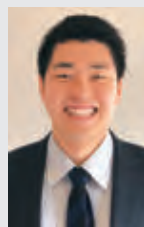


稲田 萌花

先進理工学専攻 1年

本専攻に進学し、多様なバックグラウンドを持った同期と出会い、分野・地域の垣根を越えた人脈を形成することができました。俯瞰科目の履修で出会った起業を志す学生の、信念を貫き己を信じる強さに圧倒されながらも、自ら踏み込み交流することで、新たな知見を得て自身の研究の社会的意義を見直すことができました。大切な同期たちと鼓舞し合いながら、核となる専門力をより一層身につけ、未来社会を見据え、革新的なアイデアを創出できる研究者に成長していきたいと思います。

■ 垣根を越えて挑戦できる環境



村上 晃平

先進理工学専攻 3年

研究機関実習で3ヶ月間、カリフォルニア大学サンディエゴ校に留学しました。様々な国から集まった学生・研究者との議論では、日本で培った研究力が十分に通用することを実感しました。一方で、研究成果を正しく伝える言語能力と同じ程度に、文化的背景の違いへの理解が重要であることに気づきました。今後も国内外の産・学の研究者との議論を通じて自己研鑽を続け、世界で研究者として戦うための力を身に付け、世界規模でのエネルギー問題解決に取り組む研究者を目指します。

■ 世界で研究者として戦うために

求められるのは、能動的に、自ら、発想し、実現する力。

■ ポジティブな「なんとなく」はだいたい当たる



喜久里 浩之さん

国立研究開発法人産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター
早稲田大学大学院 先進理工学研究科 先進理工学専攻 修士(工学)

本専攻に進学した理由は「なんとなく」面白そうだったからです。もちろん細かい理由はありませんが、研究やカリキュラムは実際にやってみないと自分に合っているかわかりません。それよりも、早々に腹をくくり、日々「なんとなく」ポジティブな気持ちを持てていくような環境を選択しました。

「なんとなく」から始まった5年間は控え目に言って最高でした。大学の教授陣、一流研究者、大企業の重役、ベンチャー社長、優秀な同期など、たくさんの素晴らしい人と出会うことができました。これだけ多くの素晴らしい人に出会える環境を他に知りません。真剣にぶつかっていけば、次々に良質な機会を提供してくれます。残念ながらこの機会は平等ではありません。行動したもの勝ちです。ここで培った行動力、手を挙げる勇気は就職後も役立っており、今尚、良質な機会に恵まれています。

今、もし「なんとなく」面白そうだなとポジティブな感情を持っているのなら、本専攻に挑戦し、良質な機会を使い倒してみたいかがでしょうか。

■ 柔軟な思考や行動のできる研究開発者を目指して



池田 祐子さん

コニカミノルタ株式会社 開発統括本部 要素技術開発センター
早稲田大学大学院 先進理工学研究科 先進理工学専攻 修士(理学)

通常の博士課程よりも盛り沢山なカリキュラムに魅力を感じ、先進理工学専攻への進学を決意しました。当初は、卒業後もアカデミアで研究活動が続けることを考えていましたが、企業インターンシップを経験し、より世の中への貢献と近いところで仕事をしたいと思うようになり、学位取得後は企業への道を選択しました。現在、会社では大学での専門分野とは全く異なる、インフォマティクス分野の業務を進めています。学位取得者に求められていることは、特定の専門領域の知識はもちろん、それだけではなく、使いこなせる第二の専門領域を持つことが重要であるとひしひしと感じています。

所属研究室から離れて、新しい環境や知識に囲まれた時に、如何にして吸収するかを鍛えた経験は、会社で新しい分野に放り込まれた今、非常に役立っていると感じます。恵まれた環境である本専攻ですが、在籍しているだけでは通常の専攻と何も変わりません。積極的に動いて、最大限に有効活用し、多くのことを吸収して欲しいと思います。

企業・研究機関で働く先輩からの言葉

Professors Information

教員紹介

専門分野の第一人者が集結



朝日 透 教授

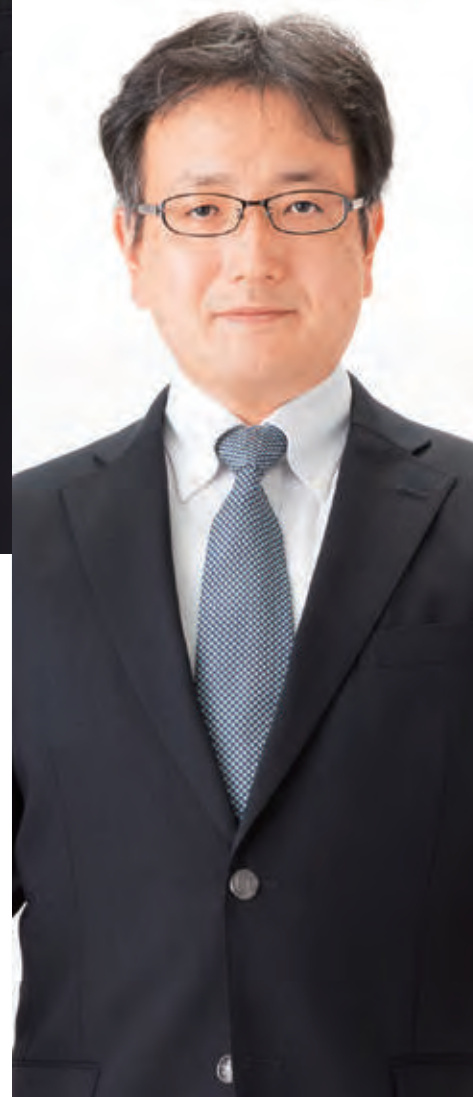
生物物性科学・キラル科学

グリーンサイエンスに役立つ有機・無機の光学材料、電子材料、磁性材料、エネルギー材料やその複合材料の創製およびバイオメディカルサイエンスの学際的研究におけるタンパク質、DNA、細胞に関わるバイオマテリアルの研究に取り組んでいます。とくに、機能性材料の物理化学的性質や光学的性質と結晶構造や微細構造との関係を調べ、機能性発現の機構を解明したり、最先端研究に必要な新しい手法や解析法を開発したりして、グリーンサイエンスやライフサイエンスの進展に寄与します。

小柳津 研一 教授

高分子化学

合理的な分子設計に基づく高分子の合成とその特性解析を通して、分子構造と熱・電気・光物性の相関を追究しています。高密度レドックス分子を電荷分離・輸送・貯蔵材料として用いた高密度有機リチウム電池や空気二次電池、フレキシブル全有機電池・キャパシタ、太陽電池、リチウム有機硫黄電池など、高分子ならではの特徴を生かした斬新なエネルギー材料の開拓に取り組んでいます。また、空気酸化を用いた省エネルギープロセスによる芳香族高分子の画期的な合成法をみだし、新しい樹脂材料として展開しています。特定の分子機能を発現させる原理の解明からデバイス応用までを課題とし、新しい高分子材料を創り出すための基礎を研究しています。



勝藤 拓郎 教授

物性物理

遷移金属酸化物を中心とした強相関電子系(あるいは強相関材料)と呼ばれる物質群においては、電子の持つ電荷自由度、スピン自由度、軌道自由度などが絡み合った多彩な現象を示します。特に、電子の集団運動に由来する巨大な外場応答や、複数の自由度の制御を可能とするマルチファンクショナルな性質を用いた、様々な応用も期待されています。このような物質群に関して、物質開発・単結晶成長・物性測定を組み合わせて、「新しい物質による新しい物理の創成」を目標とした研究を行っています。さらにこうした物質群を用いて、エネルギー変換、貯蔵、輸送に有効なデバイスの創造を目指します。

関根 泰 教授

触媒化学・資源利用化学

非在来型の固体触媒反応によって、エネルギー・環境分野の問題解決に資する新たな技術を生み出しています。複合酸化物や微細金属を生かし、高度に制御された構造を有する不均一系触媒を創出し、その作用学理と応用について、SPring-8をはじめとする高度構造解析や赤外・XPSなどの分光により微視的に解析し、世の役に立つ触媒プロセスへとインテグレートさせています。また、独自に開発し展開を進めている電場印加触媒反応についても、低温作動触媒の新たな地平を切り拓くべく、その学理と応用について固体イオニクスや電気化学の視点を取り入れた深い研究を進めています。



多辺 由佳 教授

ソフトマター物理

柔軟性と丈夫さを併せ持つソフトマターは、生体から製品まで様々な分野に用いられています。私達は、液晶・生体膜・バブル・コロイド・ソフトクリスタルを対象に、「対称性」と「動き」に注目して物性研究を行っています。具体的には、キラル液晶に熱流や拡散流を与えると引き起こされる分子集団回転運動、直流電場によるバブルの自励振動、電子線照射によるソフトクリスタルの自発的対称性の破れと一方向回転、疑似生体膜への特異的な物質吸着・脱離など、異方性ソフトマターにしか見られない非共役な入出力関係から、ソフト凝縮系物性の一側面を明らかにするとともに、新しいソフト材料の開発を目指しています。

林 泰弘 教授

先進スマートグリッド(エネルギーマネジメント)

環境に配慮した電気エネルギーの安定供給は、持続可能な社会活動を実現するために必要不可欠です。太陽光や風力発電などの環境に優しい再生可能エネルギー源の導入と電気エネルギーの安定供給の双方を継続実現可能な次世代の最適な電気エネルギー供給形態をトータルデザインするとともに、その実現に向けた先進的方法論をコンピュータシミュレーションと次世代電気エネルギーシステム模擬実験を通して、研究開発しています。先進的な予測・計画・運用・制御手法によるエネルギーマネジメント技術を基盤として、リビング、モビリティ、ヘルスサポート、プロダクション等を包含したスマート社会の実現に向け、先進スマートグリッドシステムの構築を目指します。



Professors Information

教 員 紹 介



古川 行夫 教授

構造化学

ラマン分光、赤外吸収分光、紫外・可視吸収分光、蛍光分光など各種分光測定法やX線回折法などを用いて、物質の電子・分子構造を研究する構造化学を専門としています。エネルギー分野においては、有機半導体、金属酸化物、共役高分子の薄膜の電子状態と固体構造を研究し、得られた知見を基にして、有機EL、有機トランジスタ、有機薄膜太陽電池、有機/無機ハイブリッド太陽電池などの電子デバイス開発の基盤を構築しています。光による電荷の発生、電荷による光の発生、電荷(キャリア)移動、正負電荷の再結合などの素過程を化学の視点から捉え、機能発現メカニズムを解明し、高性能デバイスを開発することを目指しています。

村田 昇 教授

数理工学

生体の学習機能を数理的にモデル化して工学に応用することに取り組んでいます。我々人間は過去の経験をもとに未知の状況に対処することができますが、この学習機構の背後にある仕組みを調べ、様々なデータの解析に適用できるようなアルゴリズムとして実装しています。こうした解析技法は現在大量に蓄積されつつある我々の身のまわりのデータの解析、例えば家庭の電力消費の予測や商品の評価アンケートの分析などに活用されています。また、直接測ることができないため数値化することが難しい人間の内部の状態を、脳波や筋活動電位あるいは音声など生体が発する信号を計測し分析することによって推測するといった研究も展開しています。



Winther-Jensen, Bjorn教授

エネルギー材料

The needed and ongoing change towards more sustainable energy sources is requiring new technologies for energy conversion. The most promising and developed non-fossil energy sources (Hydro-electric, solar-voltaic, wind and nuclear) all produces electricity – not fuels. However fuels currently account for >70% of the energy consumption. At the heart of technologies for energy-conversion are the development of new, stable and cost-efficient catalysts and this is the core of my research. With focus on the water-splitting reaction we are researching the use of conducting polymers and composites thereof as catalysts for electrochemical and photo-electrochemical reactions. The ultimate aim being the conversion of solar energy directly to hydrogen fuel.

早大理工学術院による強力な支援体制

■ 質高い研究サポート体制

物性計測センター(理工学術院リサーチサポートセンター 物性計測部門)は早稲田大学理工系の共同利用研究施設として、電子顕微鏡や核磁気共鳴装置などの大型分析装置や計測機器を設置しています。センターでは、分子構造解析、結晶構造解析、表面・形態構造解析、熱物性の専門グループが設備を計画的に整備しています。研究に取り組む学生に対しては、リサーチサポートデスクが技術相談窓口となり、各種分析法、観察方法および試料作製法などの技術相談を行います。また年間を通じて、装置実習や入門セミナーなどの教育プログラムを提供しています。

■ 大学院までシームレスに続く語学教育

理工学術院英語教育センターは、国際レベルの研究者・技術者を育成し世界に送り出すことを目的とし、理工系学生に適した実践的な英語教育を行うために設置されています。理工系英語の教育目標として、技術者・研究者として必要となる①理解能力(専門書や論文、プレゼンテーションを理解する)、②発表能力(論文を執筆し、プレゼンテーションができる)、国際人として必要な③意思疎通能力(双方向のコミュニケーションができ、グローバル社会の動向を理解できる)を掲げ、そのプログラムと教材を開発しています。学生ひとりひとりの英語力向上のため、プレースメント・テストに基づく習熟度別クラス編成、グローバル・スタンダードでの英語力測定などを実施しつつ、多種の英語科目を提供しています。

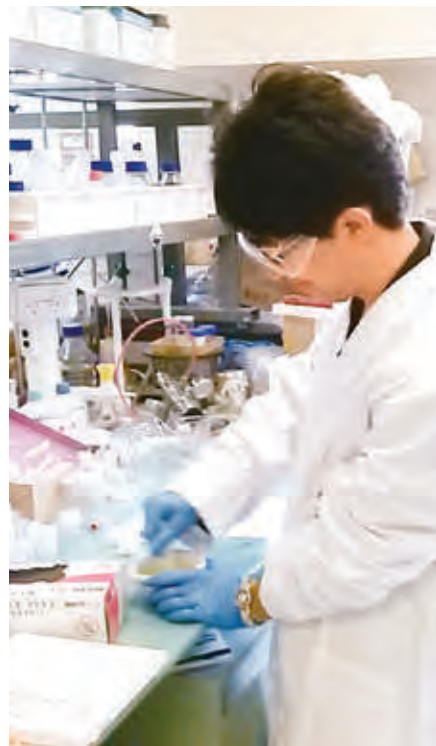
■ キャリアデザイン支援

博士学生のキャリアデザインには多彩な可能性があります。博士キャリアセンターでは企業の人事部門や海外部門など様々なキャリアを持ったアドバイザーが、キャリアパスに関する相談、インターンシップ先企業の紹介など、ひとりひとりの個性を見極めてテラーメイドでキャリアデザイン支援を行っています。また、博士課程進学を迷っている学部・修士学生の相談も受け付けています。

■ 多様な教育研究資金

先進理工学研究科では、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム【リーディング理工学博士プログラム『エナジー・ネクスト』リーダー育成】を2012年度に開始し、本学初となる5年一貫制の博士課程教育を展開しています。また、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援(SGU)【WasedaOcean構想】を2014年度に開始し、超一流の海外大学教員による講義や研究指導を受けられる機会も格段に増えました。さらに文部科学省次世代アントレプレナー育成事業「EDGE-NEXT人材育成のための共創エコシステムの形成」やデータ関連人材育成プログラム「高度データ関連人材育成プログラム」を2017年度に開始し、アントレプレナーシップ養成コースやAI・IoT教育カリキュラムを構築・導入するなど、時代の要請に対応しカリキュラムを進化させ続けています。

これらと並行して、産業界との共同プロジェクトであるCOI-STREAMやNEDOプロジェクトなど、特に博士学生の研究活動を支える研究費の獲得にも努めています。



入 試

入試日程		
	6月出願 (9月または4月入学)	12月出願 (4月入学)
出願期間	6月初旬～中旬頃	12月中旬～下旬頃
試験日	7月初旬～ 中旬の土曜日	1月中旬～ 下旬の土曜日
合格発表	7月下旬	2月上旬

専門筆記試験
A群・B群各々から1科目選択し、計2科目を受験する

■ 選択科目A群
物理Ⅰ(力学)、化学Ⅰ(熱力学・化学反応論・化学平衡論)、 生命科学Ⅰ(細胞生物学)、電気・電子Ⅰ(電磁気学)
■ 選択科目B群
物理Ⅱ(量子力学)、化学Ⅱ(無機化学・有機化学)、 生命科学Ⅱ(分子生物学)、電気・電子Ⅱ(回路理論)

面接・口述試験
志望動機と現在の研究内容等について発表5分以内+ 質疑応答5分程度

選抜方法
①筆記試験(専門科目) ②面接選考(口述試験を含む)

■出願時に以下のスコア以上の英語テストスコアレポートを提出する

TOEIC L&R	TOEFL iBT	IELTS Academic
550	57	4.5

※入試日程・出願方法の詳細は、必ず理工学術院ホームページの一貫制博士課程一般入試の最新の入試要項で確認してください。
※先進理工学研究科の「修士課程推薦入試」で合格した学生は、推薦枠を保持したまま出願できます。詳細はお問い合わせください。

授業料・奨学金等

本専攻では、区分制(修士課程+博士後期課程)では修士課程にあたる一貫制博士1-2年次においても、博士課程の授業料や奨学金、活動支援制度が適用されます。
授業料は区分制と比較して、5年間総額で約50万円安価になります(授業料のみの比較。実験演習料等を除く)。

また、博士後期課程対象の「博士後期課程若手研究者養成奨学金」や「国際会議論文発表補助費・複写代補助費」を1年次から申請できます(通算5回まで)。
このほかに、早稲田大学では、「小野梓記念奨学金」「大隈記念奨学金」などの様々な給付奨学金制度や、海外研究機関への長期派遣にかかる経費の補助制度などがあります。

就 職

修了者の半数以上が材料系、デバイス系、システム系など多様な分野の研究開発職として産業界に就職しています。
【就職先(2017-18年修了者)】
産業界:ispace、旭化成、NOK、コニカミノルタ、東京化学同人、東芝ナノアナリシス、日本たばこ産業、日立製作所、堀場製作所、三井化学、三菱ケミカル×2名、三菱電機、三菱マテリアル×2名、メタジェン、ヤフー・ジャパン
公的研究機関:神奈川県立産業技術総合研究所、産業技術総合研究所、理化学研究所

大学:JSPS特別研究員PD(早稲田大学)、シカゴ大学(PD)、(国立)シンガポール工科大学(PD)、東京大学(助教)、長岡技術科学大学(助教)、名古屋大学(助教)、早稲田大学(講師)

■ 一貫制博士稲門会
修了後の人的ネットワークの維持・拡大を目的とし、2018年11月、早稲田大学校友会の登録稲門会として「一貫制博士稲門会」が発足しました。 本専攻修了者のほか、実体情報学コースの修了者、関係教員を対象とし、本専攻およびコースの在学学生は学生会員として参加できます。